

2012年度事業報告書

(2012年4月1日から2013年3月31日まで)

特定非営利活動法人札幌チャレンジド

【特定非営利活動に係る事業】

1. パソコン講習会事業

パソコン講習は、受講者数減が継続しており、年間延べ約 600 人の受講者数であった。講師会議での議論を経て、2013 年度からはより受講希望者のニーズに即した少人数での講習も開催していくこととした。

また、北海道社会福祉協議会から受託している中国帰国者向けのパソコン講習は継続して実施しており、A型講師の講習機会を確保する重要な仕事となっている。

2. 視覚障害者支援事業

視覚障害者向けパソコン講習を行うことが可能な講師養成に向けて勉強会等を開催しながら組織体制の再構築を行っている。札幌チャレンジドとして地道に継続していきたい分野であるので、引き続き、講師養成に注力していく。

また、日常生活用具販売として視覚ソフトの販売が堅調である。

3. 就労・就職支援事業

(1) 就労継続支援サービス (A型) 事業

2012 年度は、雇用契約者 13 名、非雇用契約者 15 名の合計 28 名が就労継続支援サービス利用者として仕事に従事した。

A型チャレンジドへの支払い総額

2012 年度：15,309 千円 (前年比 14%減)

2011 年度：17,744 千円

2010 年度：20,504 千円

2009 年度：17,915 千円

2008 年度：15,621 千円

2007 年度：10,577 千円

A型チャレンジドの一人平均月額賃金 (単純平均)

2012 年度：52,610 円

2011 年度：55,975 円

2010 年度：55,269 円

2009 年度：55,295 円

2008年度：51,319円

2007年度：39,175円

総支払額は、前年比 14%減少しているが、A型利用者の職員化による減額も含まれているため、実質的には若干の減少であり、減少傾向に歯止めがかかりつつある。

8月から新たな本格的な受託業務が始まるなど、継続した仕事も少しずつ増えており、2013年度は、増額できる見込みである。

また、A型就労全体の賃金体系の見直しを進めており、2013年度6月をメドに新たな制度を導入予定である。札幌チャレンジドでの働き方をより安定したものとしていくために引き続き努力していきたい。

(2) 就労継続支援サービス事業以外の就労支援事業

ベースとなる仕事の受注が増えていないことと、継続した仕事は全て就労継続支援サービスの利用者が担当しているため、一般の障害者への仕事の依頼が拡がらない状況となっている。金額は、ほぼ前年と同レベルの約 72 万円である。

札幌チャレンジドとしての位置付けとしては、安定した仕事を提供することから、就労継続支援サービスの利用者の事前登録的な意味合いに変わってきている。

(3) チャレンジドが従事する主な業務内容

- ① パソコン講習講師
- ② ネット上における監視業務（掲示板など）
- ③ データベース入力業務
- ④ カタログ掲載商品のデータ入力・画像編集業務
- ⑤ リライト業務（原稿を必要な文字数で書き換える業務）
- ⑥ データ収集業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって収集する業務）
- ⑦ アフィリエイト関連業務（商用アフィリエイトのための補助業務）
- ⑧ 商用イラスト作成業務
- ⑨ ホームページ制作業務
- ⑩ ホームページ更新・修正業務
- ⑪ アンケートデータ入力業務
- ⑫ WEBモニタリング業務（ネット上のデータをお客様の依頼によって調べて報告する業務）
- ⑬ 写真加工・切抜き業務
- ⑭ 字幕製作業務
- ⑮ テープ起こし
- ⑯ 事務局業務 など

(4) 就労移行支援サービス事業

2011年11月から就職支援のために「就労移行支援サービス」を開始した。2012年度が実質的には初年度の実績として考えられる。

2011年11月から2013年3月までの間に、24人の利用者が札幌チャレンジドの就労移行支援サービスを利用し、14名が就職した。この人数は、他の事業所の実績から勘案して非常に優秀な実績である。

『パソコンを使用する事務業務』を明確な対象業務として位置付け、そのために必要なスキルを集中的に訓練し、その後、細やかな就職支援活動を行った結果が実績につながっていると考える。

就職した14名の障害種別の内訳は、身体障害7名、知的障害4名、精神障害3名となっており、障害種別に関係なく就職を実現している点も大きな特徴である。今後は、利用者の継続した確保と、就職先の開拓にさらに注力していく。

(5) IT活用等による在宅就業支援事業

2010年度から始まった社団法人北海道総合研究調査会（HIT）からの委託事業を継続して実施した。本事業では、在宅就労に向けた遠隔講習を受講しているチャレンジドへのサポートを行っており、札幌チャレンジドの経験を活かせる事業である。

4. 行政からの主な受託事業

(1) 札幌市障がい者ITサポートセンター事業

① パソコン講習会

札幌市身体障害者福祉センターにおいて、身体及び知的、視覚、聴覚、上下肢、盲ろう障害別に、32回の講習会を行った。

② パソコンボランティア派遣

利用者数は堅調に推移しており、制度の周知が図られている。

③ 相談業務

電話、メール、来所・FAX等で相談対応を行っている。

5. 子育て！北海道事業

2006年12月に開設した子育て支援のポータルサイト「子育て！北海道」の運営に関する事業。NPO法人北海道子育て支援ワーカーズと協働で運営している。

2011年12月22日、携帯向けサイトも構築した。

今後も、子育て支援につながる情報を発信していく。

6. その他

(1) 赤い羽根共同募金助成事業

「デジタル録音図書作成機材一式購入」事業に対して、赤い羽根共同募金の助成をいただきました。この事業では、購入した機材でDAISY（デイジー）図書を作成します。DAISY（デイジー）はDigital Accessible Information Systemの略で、デジタル録音図書の国際標準規格として知られています。このデジタル録音図書によって、文字のみによる学習や読書、情報収集が困難な方たち（特に、学習障がい、知的障がい、視覚障がいの方たち）の情報格差を解消し、みな等しく就労や学習の機会を得られるようにしていきたいと思っています。



7. 総括

2012年度は、6月から新体制となって、事務局メンバーも新しいメンバーが増え、札幌チャレンジドが次のステージに歩み出すスタートの年のような年でした。

主要事業である就労継続支援事業は、新たな継続した仕事も始まるなど、少しずつ仕事の受注量が回復基調となり、チャレンジドの給与体系の見直し、整備などにも着手し、より働きがいのある職場作りに取り組んでいます。

就労移行支援事業は、事実上の初年度ということもあり、手探りの一年間であったが、優秀な就職実績を達成できたことが大きな喜びです。札幌チャレンジドの就職支援のスタイルとして、しっかりとした人材育成カリキュラムを確立し、継続して就職実績を挙げられるように、さらに創意工夫を積み重ねていきたい。

次に、今年度もパソコン講習会、訪問講習、札チャレ通信発送、事務所の掃除など多岐に渡る活動にたくさんのボランティアの人たちにご協力をいただいた。一見すると事業中心のNPOに見えるが、札幌チャレンジドの活動にとってボランティアの存在は、無くてはならない存在であり、引き続き、ボランティアの人たちと共に、ミッションの実現に向けて活動を進めていきたい。

最後に、収支決算については、75,635 円の黒字ではあったが、まだまだ経営体質としては、安定しておらず、引き続き、収入を増やすための努力が必要である。特に、2013年度は、札幌チャレンジドとして初めてとなる「中期経営計画」を策定し、中長期の目標をしっかりと定めて、持続可能な組織運営を実現していきたい。

【NPO 法上のその他の事業】

本年度は実施せず。

以上